

乳幼児親子が安心して暮らせる 地域の居場所づくり

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用したNPO法人はんもつきの取り組みを紹介します。

子育てのコミュニティづくりに 取り組む

大阪府箕面市にあるNPO法人はんもつくは、「親が自分らしさを見失わず、子育てや子どものいる生活に豊かさを感じ、自信と誇りをもてるような社会」を目指し、乳幼児親子が安心して子育てができるサポートやコミュニティづくりに取り組んでいる。

同法人の活動は、平成8年に箕面市において子育てサークルをつなぐことを目的に、母親を中心とした住民が集まる任意団体を立ち上げたことにはじまる。地域の子育てサークルや遊び場を紹介する「子育てMAPみのお」

の発行、サークル交流会や0歳児親子を対象にした赤ちゃん広場の運営などの活動を行い、平成25年にNPO法人化した。現在、法人スタッフは子育て経験のある母親をはじめ、助産師、小児科医、看護師、管理栄養士、保育士などの専門職が集まり、支援に携わっている。

箕面市の地域特性や子育て環境の変化について、代表で小児科医の福井聖子氏は次のように語る。

「活動拠点の箕面市は、令和4年度の人口は約13万6千人、出生数は830人でともに減少傾向にあります。大阪市のベッドタウンとして富裕層の多い地域として認知される一方で、貧困等の問題が見えづらい地域となっています。任意団体の発足時は、市内には子育てサークルが30団体ほどありましたが、幼稚園の入園年齢の引き下げや運営の負担などから、令和4年には4団体に減少しています。子育ての『お互い様』という感覚が乏しくなり、子どもや親同士が関係性を気遣う風潮が強くなっています。子育ては自分が頑張るものだと考え、相談や他人に頼ることができず、悩みを抱え込んでしまうケースが少なくない

ひと言

WAMから

小児科医・助産師といった専門職の方が、教育されたスタッフとともに専門的な支援を行っており、地域において高い貢献をしている事業であると評価しています。今後も行政や地域等と連携して事業を継続していただくことを期待します。また、このような取り組みは他地域においても大変役立つものですので、今後は取り組みについての情報発信にも力を入れていただき、このような活動が近隣の自治体など他の地域にも広がっていくとよいと考えます。

ように感じています」（以下「」内は福井代表の説明）。

0歳児の子育て支援が不足

同法人は、令和2～4年度のWAM助成を活用し、「先輩ママと助産師と小児科医が創る乳幼児の親子の居場所事業」を実施した。

同事業は、産後の母親が先輩ママや専門職とつながる居場所を開設し、子どもを育てる楽しさや負担感を分かちあえるようになることを目的に、①0～1歳児親子の居場所「街の実家事業」、②赤ちゃん広場「リンクル」の開催、③支援者研修、④高校生とのふれあい授業等を行った。



「もともと、当法人は1～2歳児親子の支援を中心に活動してきましたが、子育て経験のない親にとって、0歳児への関わりは難しく、育児のノウハウがないにも関わらず、母親同士が交流したり、専門職に相談できる居場所が少ないという現状がありました。これまで親子の遊び場などを運営するなかで、さまざまな人と関わる環境が子どもの育ちや発達により影響をもたらすことを実感していたことから、0～1歳児親子を対象にした居場所を開設し、子育てをサポートすることに取り組みました」。

0～1歳児親子の居場所を開設

「街の実家事業」では、0～1歳児親子の居場所「はんもっくのおうち」を開設し、母子が過ごしやすい家庭的な環境のなかで支援を行った。



居場所のオープンスペースでは、母親同士や専門職とつながるとともに、ベビーマッサージや子育てに関する各種講座を実施



居場所の開設場所は、市内にある2階建ての一軒家を活用し、毎週火・金曜日の午前（10～12時）と午後（13～15時）に開催した。スタッフは、研修を受けた先輩ママと助産師が常駐し、小児科医や看護師、管理栄養士、保育士などの専門職を定期的に配置し、相談対応や育児指導等を行った。

居場所の活動では、無料のオープンスペースを利用者に開放するとともに、年間を通して赤ちゃん体操やベビーマッサージ、育児講座、授乳・離乳食相談、発達相談などの有料メニューを提供した。さらに、産後ケア事業として、利用者の希望に応じて子どもを預かり、居場所の2階にあるスペース

事業概要

助成額

509万4千円



WAM 助成
e-ライブラリー

令和4年度事業

NPO 法人はんもっく

先輩ママと助産師と小児科医が創る乳幼児の親子の居場所事業

【事業概要】

産後の母親が地域の人に支えられ、子どもを育てる楽しさと負担感を分かちあえるようになることを目的に、先輩ママとの交流や、産後ケアや育児講座などの助産師・小児科医による指導や相談ができる居場所をつくる事業

【実施内容】

◆乳幼児の居場所「街の実家事業」
0～1歳児親子を対象に、先輩ママや専門職とつながる居場所を開設し、産後の孤立防止や産後ケア、相談対応を行う

◆赤ちゃん広場「リンクル」の開催
0歳児親子の孤立防止や育児相談、地域における親同士の交流を目的に、ふれあい遊びや赤ちゃん体操、ベビーマッサージなどのプログラムを実施

◆支援者研修
乳幼児親子の支援に関わるスタッフの資質向上を目的にした研修会を開催

◆高校生とのふれあい授業
公立高校の選択授業として、高校生と乳幼児のふれあい遊びや、親との座談会を開催



【成果】

◆乳幼児親子の居場所は、毎週火～金曜日の午前と午後開催し、延べ669組、計1361人の親子が利用した。母子ともに過ごやすく、育児を学ぶ環境をつくることにより、子どもの成長がみられるとともに、母親が先輩ママや専門職とつながることで安心して子育てすることにつながった

◆居場所の利用者のなかには、さまざまな資格をもつ人が多く、睡眠アドバイザーによる「ねんね講座」、絵本アドバイザーによる絵本の読み聞かせが行われるなど、参加者に対して多様なメニューが提供できるようになった

◆高校生とのふれあい授業は、高校生86人、乳幼児親子26組が参加した。高校生と母親の座談会を通じて、高校生は子育ての大変さを知り、親への感謝の気持ちをもつことにつながり、母親は自身の子育て経験が役に立つことで自尊心が高まることにつながった



助成事業の波及効果

乳幼児親子を対象にした居場所の活動が評価され、令和4年11月から箕面市の産後ケア事業を受託することになった

スでゆっくり睡眠をとってもらったり、小児科医による乳児の診察または子どもの診察、発達相談、助産師による母の心身のケアや相談、授乳や育児指導、沐浴などのサポートを行った。

令和4年度の乳児親子を対象にした居場所の利用実績（年間190回開催）は、延べ669組（保護者669人、乳児692人）であった。利用者のなかには、さまざまな資格をもつ人も多く、そのなかから睡眠コンサルタントによる「ねんね講座」、鍼灸師による「小



児鍼講座」、絵本アドバイザーによる絵本の読み聞かせなどを企画し、多様なメニューを利用者に提供することにつながったという。

また、0歳児の発達には月齢により大きく異なることから、育児講座では、「2〜3カ月コース」と「6〜8カ月コース」に分け、きめ細やかな支援に取り組んだ。

「どうしても自宅で親子だけで育児をしていると、どの遊びをさせてもよいのかがわからず、危ないものはすべて取り上げてしまいます。しかし、居場所であれば、専門職や参加者で子どもを見守りながら、子どもの動きをみて盛り上げることで、刺激を受けた子どもがさらに活発に動き、成長していく様子を見ることが出来ます。やはり、人と関わりながら、遊びを広げてあげることにより、子どもは伸びていくのだと考えています」。

赤ちゃん広場「リンクル」を開催

さらに、

居場所の活動と並行して、0歳児親子の孤立防止や相談対応、母親同士のつながる場として、赤ちゃん広場「リンクル」を



0歳児親子を対象にした赤ちゃん広場「リンクル」には、延べ55組の親子が参加した



高校の選択授業で高校生と乳幼児がふれあい遊びをしている様子

11回開催し、延べ55組の親子が参加した。

「赤ちゃん広場「リンクル」は、助成事業前から地域の公共施設で定期的に実施してきましたが、居場所に通うことのできない人たちのために、市内2カ所の公共施設で継続して開催しました。0歳児親子向けのプログラムとして、『赤ちゃん体操』と『ベビーマッサージ』を実施し、赤ちゃんの発達や母親同士の仲間づくりにつなげています」。

また、法人スタッフを対象にした支援者研修では、乳児への関わり方や怪我への対応方法を学んだほか、「赤ちゃんの抱っこことねね」をテーマにした講座を行った。

講座では作業療法士を講師に、寝返りがうてない時期（ねんね期）の乳児の発達や身体の仕組み、発達にあわせた抱っこの仕方や寝床の作り方などの専門的な知識について学んだ。講座は法人スタッフだけでなく、社会福祉協議会や助産師会など地域の支援関係者にも参加を呼びかけ、助産師を中心に延べ44人が受講したという。

次世代育成を通じて母親の自尊感情が高まる

「高校生とのふれあい授業」では、協働する大阪府立箕面東高等学校の選択授業として、高校生と乳幼児のふれあい遊びや、親との座談会を行い、高校生86人、乳幼児親子26組が参加した。

「この高校の選択授業は10年以上取り組んできた活動で、令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により休止となりましたが、令和4年度に再開することができました。授業内容としては、高校生と親子が一緒におもちゃ遊び、手遊び、工作などの体験活動を行うとともに、高校生と母親の座談会を実施しました。座談会では、母親には出産時や子育てで苦労していることなど、高校生には学校生活で大変なこと、親に対して思っていることなどのテーマについて話しあいました。また、母親のバッグの中身をみせてもらい、子育て中の母親がどのような持ち物が必要になるのかを知る機会にしています」。

参加した高校生からは「親や子育ての大変さを知った」、「親に感謝しなければならいと思った」などの声が寄せられた。一方、母親からは「子どもが自分から離れて学生と遊ぶことができるようになり、成長を感じた」、「自らの子育て経験が次世代を担う高校生の役に立ててうれしい」という意見があり、母親の自尊感情を高めることにもつながったという。

さらに、令和4年度事業では、妊婦や乳児の両親、祖父母に支援を紹介するとともに、



助成事業の成果として、乳児親子の居場所をつくり、利用者同士や先輩ママとの交流、専門職による相談支援により、母親の孤立防止や安心して子育てをすることにつながることでできた。

「乳児親子を支援する居場所のモデルができたことは大きな成果となりました。3年間の活動を振り返り、0～1歳児は月齢により発達が大きく異なるため、丁寧に支援すべきことをあらためて確信しました」。

助成事業の波及効果として、子どもの預かり保育や母親のレスパイト支援を行う産後ケ

箕面市の産後ケア事業を受託

支援者同士の交流を深めることを目的としたイベント「赤ちゃんフェスタみのお」を開催した。

イベントの開催にあたっては、箕面市の子どものすこやか室、子育て支援センター、社会福祉協議会、助産師会、民生委員児童委員協議会など、乳児の支援に携わる関係機関と協働し、それぞれが企画を持ち寄ることにより、参加者に対して豊富なメニューを提供することができた。これまで支援者同士が集まる機会は少なく、連携体制を構築する足掛かりになったという。



令和4年度に開催した「赤ちゃんフェスタみのお」。行政や支援団体と協働し、乳児親子に多様なメニューを提供した



先輩ママと専門職の連携が強みに



NPO 法人はんもっく
代表 福井 聖子氏

令和4年度から箕面市の産後ケア事業を受託していますが、支援を受けた母親が元気になり、その後オープンスペースを定期的に利用していただけるケースが増えています。

また、居場所に小児科医がいることのメリットとしては、しっかりと理論化し、データを示しながら伝えることにより、母親たちがアドバイスを受け入れやすいところがあると思います。先輩ママから聞き取ってもらった内容を各専門職に割り振り、アドバイスしていますが、このように先輩ママと専門職が役割分担して連携を図っていることが当法人の居場所の強みだと考えています。

アの取り組みにおいて、令和4年11月から箕面市の産後ケア事業を受託することに至った。

「行政の産後ケア事業は、医療機関による実施を要件とする自治体が多いなか、箕面市では産婦人科もしくは助産院に加え、『その

◆団体概要

〒562-0041
大阪府箕面市桜2-8-10
TEL: 072-703-4588
FAX: 072-703-4588
URL: <https://minoh-hammock.jimdofree.com/>
設立: 平成25年6月
代表: 福井 聖子



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）

TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）

TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしくをお願いします！

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。著作権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。